

福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

● 100万人参観者運動を!

'83年1月来館者数	7,102名
通算1ヵ月平均来館者数	4,310名
当月1日平均来館者数	296名
通算来館者数	336,193名

武藤宏一氏の二と

岩垂弘

今年もまた、三・一ビキニデーがめぐって来たが、今年も、ある一人の人間の存在がわたくしの心をとらえて離さない。

その、ある一人の人間とは、昨年一月二十四日に、ガンにより四十歳の若さで世を去らねばならなかった武藤宏一氏である。

ビキニ水爆実験の証人である第五福竜丸が東京・夢の島に保存されるようになったいきさつを知る人なら、武藤氏の名を記憶している人も少なくないだろう。なぜなら、武藤氏こそ、福竜丸保存のうえで重大な一石を投じた人だからだ。すなわち、福竜丸が夢の島のゴミの山の谷間で朽て果てようとしていた昭和四十三年三月、武藤氏は「沈めてよいか第五福竜丸」と題する一文を新聞に投書し、これが、福竜丸保存運動がスタートするきっかけとなった。

武藤氏の死後、氏の思想と人間性とその生き方の軌跡を広く世の

中に知らせたいと考える友人、知人、第五福竜丸平和協会関係者らによって「武藤宏一氏追悼文集編集委員会」がつくられ、現在、追悼文集刊行の作業が続けられている。武藤氏と面識のなかったわたくしもその一員に加えさせていただいたことから、氏が書き残していた日記、メモ、覚書き、エッセイ、手紙などに目を通す機会を得た。

わたくしにとって、それらは、一種の衝撃といつてよかった。書き残されたものの量のおびただしさに目を見張ったばかりでない。なによりも、氏がさまざまな問題について、ひたむきに、いささかもごまかしや妥協を許さぬ厳しきをもって思考を深めていたことに圧倒された。そして、そこに一貫して流れているのが、平和を願う心と、反戦反核への強烈な意思と他人を支配する立場にはわが身を置きたくないという、いわば人間

の真の平等を願う心と、弱者への思いやり、であるを知って、わたくしは深く心を打たれたのである。つまり、武藤氏はわたくしが予想していたよりもはるかに鋭く、深い思考力と、誠実で豊かな人間性を内面に、それも静かにたたえた人物であった。まさに、非凡の人であった。「沈めてよいか第五福竜丸」という氏の訴えも、そうした氏の全人格、それまでの生活体験からほとぼり出たものであったことを、わたくしは理解したのである。



● 資料

北原節子・ルポ「死の灰にゆらぐ焼津の表情」の一節 八「新女苑」一九五四年十二月号所収

福竜丸の船主西川さんの話

ビキニの灰をかぶった被災者はたんに二十三人の船員ばかりではない。私たちは、久保山さんの御家族その他を訪ねる前に、第五福竜丸の船主であり、二十三人の直接の船元である西川角市さんを訪れた。「もう、こんなことは二度とあっては困ります」西川さんはこう前置きしながら語りはじめた。「十四日朝六時に船が入りましたね、みんな、へんに黒い顔をして帰って来た。火ぶくれなどもあって、どうも話をきくと様子がおかしい。日曜だったんですけれどね、市立病院に行ってみてもらって来て、いってやっただけですよ。もしたら水爆実験以来半月も経ってこんな程度のことなら大したことはないだろうとってんでね、一応安心したんですが、何か専門のところはないだろうかと聞いたら東大の病院を紹介してくれたんです。その時、久保山はとても元気で、一番

重そうな増田、山本の二人を十五日の朝一番で東京へやった。他の人はみんなその日は魚の荷おろし、夜はまあ、とって来たサシミでお祝いのいっぱいというわけですよ。みんなして持って来たまぐろを近所にも配り、たらふくたべ、船員の入った風呂に家の者もゆっくり入ったりした。そこへ、東京から機関長の山本が帰り、「よく分らないが一週間ぐらい入院してくれといわれた」ということだったが、それも大したことじゃないのだからと安心していた。それから十一時ごろ家へ帰った。そのとたんですよ、新聞社がわいわいいて来た。「重忠が三名原爆病で入院している。名を明かせ、」ってわけですよ。私は怒ったんです。「何でもない、心配するなっっていわれたばかりなのにお前たちと医者どっちが偉いか、入院なんか誰もしていない。」ってなわけですよ。夜っぴてそんなことで十六日

朝、船に行ってみると残った船員はまだ寝ていた。こども一晩中新聞社の襲来で眠れず、「眠くてしょうがない」という。「そうかそうかまだ寝てる」というわけで、船員は何も知らぬばかりにゴテイネイにも放射能を受けたままの夜具の中に、またもぐりこんでしまった。

それから、十六日の午後一時ごろ、新聞社を通じて静岡大学の塩川博士から船をみせてほしいと申し込みを受けた。それで一緒に行ってびっくりした。船のそばに行っただけで、ガイガーが物凄いい音を立てる。これは大変だと初めて知ったわけなんです。

わずか九九・〇九トン、故国を遠く三千五百キロも離れた太平洋上から、二月ぶりに帰って来たまぐろ船の不幸はあまりにも大きすぎて想像を絶したことだったのだ。苦勞をしてとって来たまぐろはそのまま全部、泣きの涙で土を掘ってうめた。

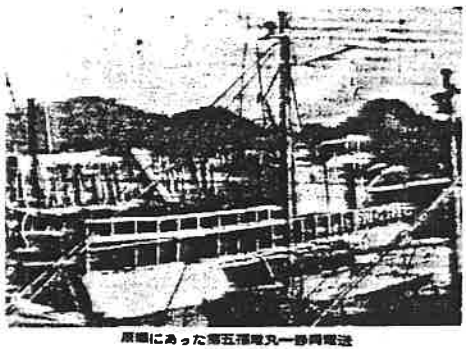
一方、福竜丸は、アメリカで買いたいと申しこんで来た、いっせ焼いてしまおうなどという話もあったが、さきごろ、文部省で学術

研究資料にするといつて買いたられ、今は東京湾の越中島にあるという。これだけのものを造ろうとすれば少くとも四千五百万円はかかる船を、一千八百一十円で買いとられた。

廃棄したまぐろの損害については、さきごろ、補償金を見越して相当した金額を貰ったので、なんとか埋め合わせはついたけれど、船主としての責任から患者の家族久保山さんの遺族の面倒もみなくてはならないが、先の見込みは全くなく、これもいつまで続くか分からないと不安な面持であった。

この二十三名の患者を最初に診断したのは、市営病院の大井博士であるが日曜であるにもかかわらず、様子を見て、「水素爆弾による原子雲を浴びておこった原爆症と思われる」と診断し、早速、東大に紹介すると同時に保健所に連絡、その適切な処置をあやまらなかつた手柄は大きい。

△注▽このルポは長文のもので、「ビキニ水爆実験資料集」の中の焼津市の状況の項に収録されているが、以下の、福竜丸の船主西川さんの話は省略されている。記者が、久保山さんのお通夜におもむく直前の西川さんにインタビューしたもので、第五福竜丸の焼津帰港直後の状況を船主の目から生々しく語っており興味深い。



原爆にあった第五福竜丸一歩留電塔

【福竜丸】第五福竜丸は、1954年11月3日、東京湾を航行中、米軍の原子爆弾実験の放射能汚染された降下物を摂取し、乗組員23名が重傷を負った。この事件は、人類の歴史に刻み込まれた悲劇である。

乗組員23名火傷
重傷者は東大に入院

1954.3.16 (木) 7時

乗組員23名火傷
重傷者は東大に入院

1954.3.16 (木) 7時



乗組員23名火傷
重傷者は東大に入院

1954.3.16 (木) 7時

乗組員23名火傷
重傷者は東大に入院

1954.3.16 (木) 7時

【朝日新聞】(昭和29年3月16日号)

いまにつながる
衝撃的な水爆被災事件

ビキニ水爆被災から二九周年の三月一日、東京で「三・一ビキニ事件記念集会」が第五福竜丸平和協会の主催でひらかれます。本号はそのための資料として役立てようと思われました。事件の衝撃がいかに強烈で、大きなインパクトを国民に与えたか。当時の新聞の小さなコラムにも、風刺漫画にもそれは鮮明によみとれます。

【朝日新聞】(昭和29年3月16日号)

いまにつながる
衝撃的な水爆被災事件

ビキニ水爆被災から二九周年の三月一日、東京で「三・一ビキニ事件記念集会」が第五福竜丸平和協会の主催でひらかれます。本号はそのための資料として役立てようと思われました。事件の衝撃がいかに強烈で、大きなインパクトを国民に与えたか。当時の新聞の小さなコラムにも、風刺漫画にもそれは鮮明によみとれます。

問題の灰、無気味な反応

光電管にパチパチ

問題の灰、無気味な反応

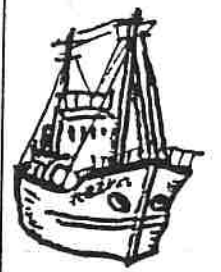
光電管にパチパチ

問題の灰、無気味な反応

光電管にパチパチ

問題の灰、無気味な反応

光電管にパチパチ



宇宙開発と私たちの未来

三・一ビキニ事件記念集会を前にして、記念講演、宇宙開発の将来と地球社会、について講師をお願いした文部省宇宙科学研究所教授の大木辰蔵氏を訪問しました。そのインタビューの骨子をご紹介します。

宇宙開発の目的

日本の宇宙開発は、東京大学で研究が初められた。当時は、星の観測が一番の目的でありロケットを打ち上げることに宇宙開発の第一歩が開かれていった。もう一つの目的は我々に役にたつことを考えることであった。通信衛星や気象衛星の開発である。アメリカやソ連も同じ目的で人工衛星を打ち上げているが、日本と異なることはその他に、軍事衛星の開発を進めている事実があることだ。日本は軍事目的で使用する人工衛星は一つもない。あくまでも、平和目的のために研究が進められている。それでは、平和目的のものが実際に役に立っているかという

こと述べれば、学術はもとより、通信一つにしても現在の世界通信の大部分は宇宙通信であり、その一番の顧客は日本の商社であることや、天気予報があたるようになったことをあげても充分に役に立っているのである。

画期的な宇宙技術の開発

最大の悩みは、人工衛星を打ち上げるのに多額の資金を必要とすることだ。それでは、世界中で一番安く人工衛星を打ち上げている国はどこかというところ、それは日本すなわち、東京大学である。日産自動車がつくったミニロケットがそれである。このミニロケットでも、二百キロの人工衛星を一発打ち上げるのに二十億円、一キロログラムに換算すると一千万円になる。これらのロケットをもっと安く宇宙に打ち上げられることを願って誕生したのが「スペースシャトル」だ。なぜ安くなるかというのを説明しよう。飛行機を例にあげると、三百人乗りのジャンボ旅客機は一機約百五十億円だが、このジャンボ機で大阪まで行くのに、一人一回一万円強という安価で乗れる。なぜ安く乗れるかというところ飛行機は何度も使用できるか

らだ。「スペースシャトル」は、飛行機とロケットを組み合わせたのだ。要するに、一回しか使用できなかったロケットが、スペースシャトルの誕生で何度も使用できる。一回打ち上げるのに約三十億円かかるとしても、一キロログラムを上げるのに十円で済む、ミニロケットの百分の一だ。それはスペースシャトルが百回使用できるからだ。これは安くなったというより、まったく新しい科学技術の幕明けた。

スペースコロニーへ向けて

この画期的な宇宙科学技術が人類の幸福のために、使用することが最大の目的なのだ。現在、世界が深刻に考えなければいけない問題がある。それは、年二%で増え続ける「人口爆発」と、それともなう「食糧資源」や「エネルギー資源」の枯渇だ。人口の増加は三五年で倍になり、今世紀の終りには世界の人口は六十二億になる。五百年後にはなんと六百六十兆である。一人一人の占有面積が一平方メートルの計算になる。これでは人間は生きていけない。人類が生き続ける場所を探すことだ。その計画が「スペースコロニー」なの

だ。宇宙に人間が移住し生活する場所である。地球の軌道上に、地球と同じ速度で太陽の周りを回っているラグランジュ・ポイントという特異な場所だ。ここは、地球の引力と太陽の引力が完全に釣り合っていて、地球からの距離は約一億キロメートル。ここでは、エネルギーは太陽熱をまるまる百分利用でき、月の豊富な資源を利用できるのである。地球に似せた、もう一つの地球の誕生だ。地球以上にずっと快適な生活を人類は体験できるだろう。これは、夢でなくて現実になる。近い将来、スペースコロニーはできる。人類が生き続けるために。そのために二つの課題を解決しなければならぬ。一つは、世界のGNP二千兆円の一分を毎年投資することと社会の意志だ。

よりよい未来をつくるために現在のGNP六%が軍事費に使われている。核兵器の開発、放射能の危険、これらをなくすために私たちは努力しなければならぬ。あくまでも科学は人類の幸福のために。それには、多くの人々の理解が必要だ。

(まとめ・森山)

社会戯評

横山泰三

15年3月2日(朝日)



末期的国会

「無礼者なにをするか!」
「だまれ、これはレポート・カウンターだ」

3月18日 読売新聞

3月21日付 朝日新聞

ミーコちゃん



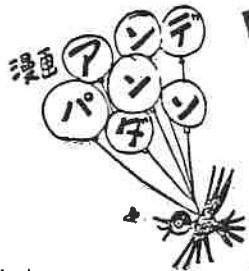
3月28日 読売新聞

アルバイト 白吉 麗三(千葉)



無理心中
山崎三郎
兼井 剛(京)

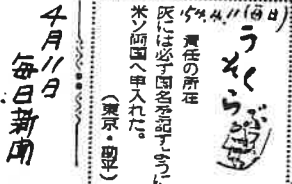
3月21日 読売新聞



3月21日 時事新報

世界の動向

- 1954年1月~5月までの
- 11 木村保安庁長官、防衛力増強の初年度計画を発表(4万1000人を増員)
 - 12 グレス米国防長官、大規模復讐略(ニューミック政策)について演説
 - 15 憲法擁護国民連合発足(議長に片山哲就任)
 - 21 米原子力潜水艦ノーチラス号進水
 - 25 米英仏ソ4国外相会議、ベルリンで開催(2月18日閉会)
 - 27 保全経済会の幹部4人逮捕
 - 1 元在日ソ連代表部、ラストボロフ書記官が米情報機関に拘留と発表
 - 8 造船業大規模、日立造船・浦賀ドックなどを手入れ、各社長を留置
 - 24 日教組、教育2法に反対を表明
 - 27 全国大学教授連合、教育2法に反対
 - 1 第5福竜丸、ビキニ水場実験に被災
 - 8 日米MSA協定(相互防衛援助協定)調印(5月1日発効)
 - 12 自由党憲法調査会発足
 - 14 第6福竜丸 静岡県焼津に帰港(16日) 全乗組員が「死」の灰、火傷と判明
 - 16 連立憲法に主権を許可と発表
 - 26 憲法改正法公布
 - 27 佐藤首相自由党幹事長、造船業で取り調べ
 - 21 大蔵相 検査部長に対する指揮権を発動、幹事長の逮捕請求を阻止
 - 22 全日労働組合会議(全労会議)結成
 - 23 日本青年会議会で水場実験の中止と原子兵器研究拒否を声明
 - 24 左派社会党提出の内閣不信任案を衆議院で否決賛成208、反対228
 - 26 シュミア会議開催(〜7月21日)
 - 7 キーミンのベトナム人民軍、デマキ 7ヶ古編
 - 29 教育法の参議院修正案、衆議院で成立(6月1日公布)



君の笑



3月18日 毎日新聞

3月21日 時事新報

是非を語ろう

三日月の正義
ノブ・キチロシマ
ノブ・キチロシマ
ノブ・キチロシマ
ユニオン?

「おれ、このマシロ大佐が...」
「おれは...」
「おれは...」
「おれは...」

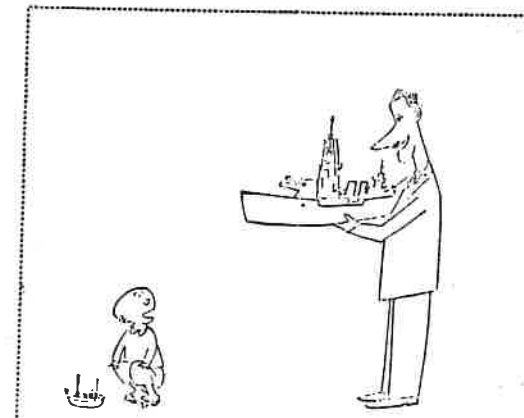


アメリカの食卓
高橋 敏(京)

3月28日 読売新聞

社会戯評

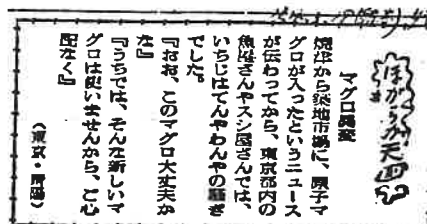
横山泰三



福竜丸引渡し反対 「おや、この軍艦をあげるから、その船をオジサンにおくれ」

3月26日 朝日新聞

3月19日 読売新聞



資料

北原節子・ルポ「死の灰にゆらぐ焼津の表情」の一節

「『新女苑』一九五四年十二月号所収」

福竜丸の船主西川さんの話
 ビキニの灰をかぶった被災者は
 たんに二十三人の船員ばかりでは
 ない。私たちは、久保山さんの御
 家族その他を訪ねる前に、第五福
 竜丸の船主であり、二十三人の直
 接の船元である西川角市さんを訪
 ねた。「もう、こんなことは二度
 とあっては困ります」西川さんは
 こう前置きしながら語りはじめた。
 「十四日朝六時に船が入りまして
 ね、みんな、へんに黒い顔をして
 帰って来た。火ぶくれなどもあつ
 て、どうも話をきくと様子がおか
 しい。日曜だったんですけど、
 市立病院に行ってみてもらって来
 いてやったんですよ。そしたら
 水爆実験以来半月も経ってこんな
 程度のことなら大したことはない
 だろうと喜んで、一応安心し
 たんですが、何か専門のところは
 ないだろうかと聞いたら東大の病
 院を紹介してくれました。その
 時、久保山はとても元気で、一番

重そうな増田、山本の二人を十五
 日の朝一番で東京へやった。他の
 人はみんなその日は魚の荷おろ
 し、夜はまあ、とって来たサシミ
 でお祝いのいっぱいというわけ
 す。みんなして持って来たまぐろ
 を近所にも配り、たらふくたべ、
 船員の入った風呂に家の者もゆっ
 くり入ったりした。そこへ、東京
 から機関長の山本が帰り、「よく
 分らないが一週間ぐらいい入院し
 てくれといわれた」ということだ
 ったが、それも大したことじゃない
 のだろうと安心していた。それか
 ら十一時ごろ家へ帰った。そのと
 んですよ、新聞社がわいわい
 来て来た。「重忠が三名原爆病で
 入院している。名を明かせ、」
 てわけです。私は怒ったんです。
 「何でもなし、心配するなってい
 われたばかりなのにお前たちと医
 者とどっちが偉いか、入院なんか
 誰もしていない。」ってなわけ
 だ。夜っぴてそんなことで十六日

朝、船に行ってみると残った船員
 はまだ寝ていた。ここも一晩中新
 聞社の襲来で眠れず。「眠くてし
 ゃうがない」という。「そうかそ
 うかまだ寝てる」というわけ
 で、船員は何も知らぬばかりにゴテ
 イネイにも放射能を受けたままの
 夜具の中に、またもぐりこんでし
 まった。
 それから、十六日の午後一時ご
 ろ、新聞社を通じて静岡大学の塩
 川博士から船をみせてほしいと申
 し込みを受けた。それで一緒に行
 っただけで、ガイガーが物凄いな
 んだ。これは大変だと初めて
 知ったわけなんです。」

わすか九九・〇九トン、故国を
 遠く三千五百キロも離れた太平洋
 上から、二月ぶりに帰って来たま
 ぐろの不幸はあまりにも大き
 くて想像を絶したことだったのだ。
 苦勞をしてとって来たまぐろはそ
 のまま全部、泣きの涙で土を掘っ
 てうめた。
 一方、福竜丸は、アメリカで買
 いたいと申しこんで来たたり、い
 っそ焼いてしまおうなどという話もあ
 ったが、さきごろ、文部省で学術

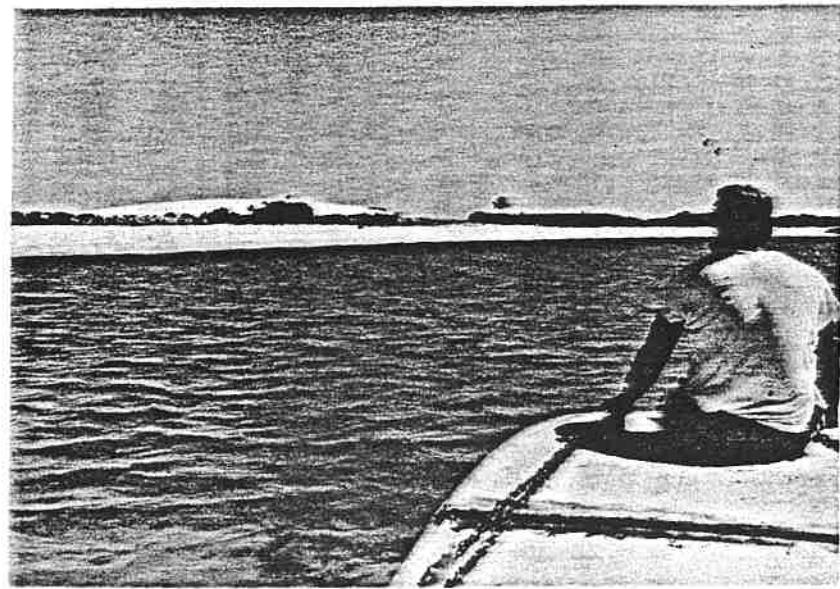
研究資料にするといって買いとら
 れ、今は東京湾の越中島にあると
 いう。これだけのものを造ろうと
 すれば少くとも四千万円はか
 かる船を、一千八百一十一年で買
 いとられた。
 廃棄したまぐろの損害について
 は、さきごろ、補償金を見越して
 相当した金額を貰ったので、なん
 とか埋め合わせはついたけれど、
 船主としての責任から患者の家族
 久保山さんの遺族の面倒もみなく
 てはならないが、先の見込みは全
 くなく、これもいつまで続くか分
 らないと不安な面持であった。
 この二十三名の患者を最初に診
 断したのは、市営病院の大井博士
 であるが日曜であるにもかかわらず
 らず、様子を見て、「水素爆弾に
 よる原子雲を浴びておこった原爆
 症と思われる」と診断し、早速、
 東大に紹介すると同時に保健所に
 連絡、その適切な処置をあらま
 らなかつた手柄は大きい。

▲註1のルポは長文のもので、「ビキニ水
 爆実験資料集」の中の焼津市の状況の項に収
 録されているが、以下の、福竜丸の船主西川
 さんの話、は省略されている。記者が、久保
 山さんのお通夜にもむく直前の西川さんに
 インタビューしたもので、第五福竜丸の焼津
 埠頭直後の状況を船主の目から生々ましく
 語っており興味深い。

●核世界の先端

マーシャル諸島

写真興生 島田



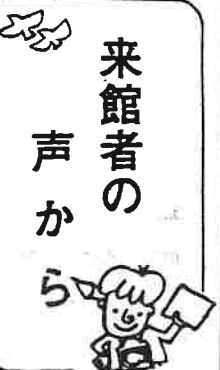
「エニウエトクの人々の生活と表情」

十二月二日、二カ月半ぶりによ
 うやくやって来た巡視船で次の目

この旅の最後
 の島エニウエ
 トク環礁に向
 った。
 二日の朝、
 水平線にのぼ
 る太陽を背に
 出港した船は
 翌日昼エニウ
 エトクに着い
 た。海上から
 見たエ環礁の
 光景は異様な
 核実験で汚染し
 た土や施設を埋め
 こんだコンクリ
 ートのドーム。この
 島で行なわれた実
 験跡に埋めこんだ
 現在でもブルトニ
 ュウの汚染で、立
 ち入り禁止にな
 っているが、鉄橋
 一つあるわけは
 ない。

珊瑚礁の特長のヤシの樹が
 見えず、まっ白な台地に居住者用
 に建てられたコンクリートの住宅
 が並んでいた。一九七八年ごろか
 ら三十数年ぶりに帰島した人たち
 の住宅だった。その住宅の一戸に
 部屋を借りて一週間滞在した。
 エニウエトク本島は東西にやや
 随円状のエ環礁の最南端にあって
 米国の核実験時代には、実験器材
 や兵員の輸送基地として使われて
 いた。このため、核実験による直
 接的な被害は汚染はないと言われ
 ていた。私が乗っていった船には
 この島への輸送物資、食料や生活
 必需品の他にガソリンも積みこま
 れており船の到着後の数日間、
 エ島の人は自分たちのモーター
 ーボートを盛んに走らせて、環礁
 の北部に出かけた。北部は四
 三回の核実験で高度に汚染され、
 最も汚染のひどい島々の土や施設
 を埋めこんだコンクリートのドー
 ムがあった。
 これらの島じまの周辺に魚をと
 り、陸で鳥を捕まえ、島の人は
 はパーティを開く。エニウエトク
 は旧核実験場関連では最も多額な
 補償が米園から支払われた。だか
 ら、住宅も島を走り廻る車も他
 島に比して一段と華やかに見える。
 そして、それ以上に補償金ぐらし
 にひたり切った住民の生活。わず
 かな滞在の間でも、私はなにか
 たたまれない毎日だった。住民は
 核の恐しさを知っていない訳でも
 なかったと思う、むしろ眼をそむ
 け、できるだけ核との関わりと結
 ばないように考えている暮らしぶ
 り、それがいたたまれなかつた。
 それは現代の核社会に生きる我々
 そのものであるからだ。それでも
 島を去るときホッとしたのはなぜ
 だったのだろうか。エニウエトク
 の空港から小型機が飛び立ったと
 き、五感では感知できない核から
 それでも少しは逃れられた、とい
 う安心感だったのだろうか。

島田さんの一年にわたるレポ
 ートは今号で一まずしめくくり
 ます。次号より、カメタマンの
 桐生広人さんのルポで、引きつ
 づき、クエゼリン、イバイ島、
 などの島々の報告をおおくりし
 ます。



来館者の声から

ぼくはこれを見てとても喜んでおくれた。今、この日本に水爆がおこったたら、日本はぜんめつするでしょう。この、第五ふくりゅう丸みたいにならないようにしてほしい。(中富小六年 五十嵐・長谷川)

私達は、本当の水爆のおそろしさはわからない。でもいま社会を習っているはんいでは知っている。写真を見ても、こんなむざんなこととはない。じっさいに見ていたらショックだろう。知りあいをなくすというのと同じだ。やはりこんな事は二度とないようにながしたい。でも、このおそろしさを知らない現代人はかりの集まりだったから、おこるかもしれない。その人達にこのありさまを見せたい。とてもいいさんこうになった。(町田市立南大谷小六年 石田)

私はせんそうはいやなことだと 私もそう思うことばかりです。 思いました。私もへいわがいいです。 これから、せんそうがないように します。いっしょうけんめいに、いき いのりたいたです。(小四・北村)

手紙の紹介

第五福竜丸平和協会の人々へ(原文のまま)

私は、社会科見学で第五福竜丸を見て来ました。わたしは、すぐそうぞうしてしまいくせがあるんです。ですからこの第五福竜丸もそうぞうしてしまいました。たのしく、まぐろを取りながらはなうたをうたって「大りょうだぞー」なんて言いながら……その船に、太湯のようなまぶしいひかりがピカッと……ここでそうぞうをやめた。なぜですって？それは、それはこわかったんです。これいじょうそうぞうしたくなかったんです。ひろしま・長崎などのげんばくのしゃしんをみたときから、いいえ、みたときも、こわくてみれないうほどだったんです。なぜ戦争があるのでしょうか。なぜ『ばくだん』なんてつくるのでしょうか。こわい……せんそうはんたいげんばくはんたい、また、のちに手紙を書くと思います。さようなら。(小四・山田理香)

私は、一月二八日に社会科見学でゆめの島りく道公園へ行った時、第五福竜丸を見て、やっぱり少しふるい船だったけれどよく働いたんだな。と思えました。あとは、しゃしんが置いてあって見ているのがかわいそうでやめてしまいました。私はそんなものを見ているとほんとうにかわいそうだな。と思っただけかたありませんでした。これからも多ぜいの人にこのくるしみをうったえて一人でも多くの人が今がどんなにしあわせかということをおしえてください。(小四・阿久津直子)

中根橋小学校の仲よしお二人より

編集後記

▼先月の雪の日、二月十七日、大林先生の研究室を訪問、先生のインタビューを収録すること二時間あまり。雑談も入れて二時間半もお世話になる。一時間の予定が、先生の好意で二倍以上お話しがうかがえたことが何よりうれしい。▼あと十六年後にこの地球は滅び人類はこの世(地球)にいなくなる……この説は『ノストラダムスの大予言』の一番言おうとしていることである。今年の九月十日と十五日に関東大地震の発生、富士山大噴火……ゾツとする内容がいくつも書かれているのである。▼これらは、先生の最近の著書である『地球非常事態宣言』により一つ一つ科学的な裏づけにより論破されていく、何と痛快なことか。しかし安心はできない。何百年もしないうちに地球人は地球だけに居住されなくなる。そのために果てしない宇宙が予定されているのである。▼バカげた戦争にお金が使われるのでなく人類の幸福のためにお金が使われるべきだという先生の言葉が印象にのこった。(も)